

テーマ別情報発信事業 開催概要

企画名	このままでは愛知の海がワヤになってまう
実施期間	2024年6月1日(土)～2024年12月31日(火)
主催	一般社団法人 海と日本プロジェクトin愛知県
協力団体	碧南海浜水族館、豊浜漁港、寿商店
開催概要	一般社団法人海と日本プロジェクトin愛知県は、海が大好きな小中学生12人と人気タレント小島よしおさんが一緒になって愛知の海の問題点に取り組むテレビ番組とイベント連動企画「このままでは愛知の海がワヤになってまう」を実施しました。碧南海浜水族館や豊浜漁港への環境学習ツアーなどを行い、愛知の海の現状について学びの場を深め、愛知の魚を使ったメニュー開発、試作品作り、実際の販売へ挑戦。 年間を通して、子どもたちが「極秘組織おっぱッピー」として海への関心を高めるために活動しました。



テーマ別情報発信事業 詳細

詳細	<企画背景> ・魚離れを食いとめよう！ 三河湾や伊勢湾などに囲まれ、養殖など沿岸漁業が盛んな愛知県。特にアサリ類、クルマエビは全国でも有数の漁獲量を誇ります。しかし、2012年と比較すると2020年時点の愛知県のアサリ類の生産量は－91%、ノリは－29%と、減少をたどっています。また、エビ類、シャコ、カレイなども減少の一途。（参考資料：2022年海面漁業生産統計調査農林水産省統計部）漁獲量の減少は地元の魚に接する機会を減少させ、私たちの食卓に並ぶ機会も減らし、魚離れを加速させてしまいます。 また、このまま魚離れが進むと、漁業者の収入の減少、地元の魚介類への興味の薄れなどを招き、愛知の人の愛知の海への関心が低くなっていく。実際、「海と日本人に関する意識調査2022」によると、愛知県人が感じる「海への愛着」は全国40位。 「このままでは愛知の海がワヤになってまう・・・」 ※「ワヤ」とは方言で“無茶苦茶”や“台無し”の意味 そこで、海を愛する子どもたち12人が「極秘組織おっぱッピー」として立ち上がり、愛知の海がかかえる問題について調査し、問題解決に向けて自分たちで出来る事を考えようと活動を開始！子どもたちをまとめるのは、人気タレントの小島よしおさん。 小島さんの代表的なフレーズ「おっぱッピー」は、「Ocean Pacific Peace（オーシャン パシフィック ピース）」の略。小島さんがボスとして、子どもたちの意見を聞きながら、一緒に愛知の海の問題点について、考えていきました。 <活動内容> 2024年6月、結団式。 ボス小島さんから子どもたちへ出た指令は「未来の海を守るため、愛知の海のことを知ってピーヤ！」。 まずは愛知の海について学ぶため、子どもたちは、愛知県碧南市の碧南海浜水族館を訪ね、三河湾や伊勢湾にいる魚について調査を実施・その結果、日本には4500種類、三河湾にはおよそ200種類の魚が生息していることを知りました。さらに、その中でも食べられるけど漁師さんが獲らない「未利用魚」と呼ばれる魚がいることを学びました。 また学習ツアーでは、南知多町・豊浜漁港へ行き、子どもたちは現役の漁師さんたちにインタビューを実施。「愛知で一番、たくさんとれる魚は何ですか？」「季節によってとれる魚は違うんですか？」「昔と今でとれる魚は変わっていますか？」など、次々と質問をし、愛知の海の現状を取材。 話を聞く中で、トゲに毒があるので処理が難しく未利用魚になっている「アイゴ」という魚がいることを知った探偵たち。そして、アイゴが増えて海藻を食べ尽くすと“磯焼け”（海底の藻が少なくなって砂漠化する現象）が起きることも学びました。豊浜漁港でも「アイゴ」は人気がなく、流通することは少ないといえます。漁師さんたちの願いは「地元の魚をもっと食べてほしい」ということ。アイゴも、トゲの毒に気を付けて内臓をとるなどきちんと下処理をすれば、美味しく食べれるということで、アイゴを使ったメニューを開発して、みんなに海の問題を知ってもらうことになりました。 アイゴってどんな魚？どんな味が合うのかな？ 地元の鮮魚店「寿商店」に協力してもらい、オリジナルハンバーガー「アイゴと昆布の青海苔タルタルバーガー」を制作、2024年10月19日（土）J1名古屋グランパスの最終戦、愛知・豊田スタジアムで100個限定販売を実施しました。
-----------	--

テーマ別情報発信事業 写真

《6月23日学習ツアー》



《7月31日メニュー開発》



《9/14試食アンケート実施》



《10/19オリジナルハンバーガー販売》



《その他》



アイゴと昆布の青海苔タルタルバーガー

指令書ファイル